



2026 年 9 月 1 日

各 位

会 社 名 Hm c o mm株式会社
代表者名 代表取締役社長 CEO 三本 幸司
 (コード：265A、東証グロース市場)
問合せ先 取締役常務執行役員 CFO 土屋 学
 (TEL. 03-6550-9830)

**(開示事項の経過) コラボテクノ株式会社との技術 PMI 進捗および
「AI-FDE 高度化プロジェクト」開始に関するお知らせ**

～コラボテクノのエンジニアリング力とHm c o mmの AI・VAAP を融合し、FDE 事業の本格展開を加速～

Hm c o mm株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 CEO：三本 幸司、以下「当社」）は、本日、2026 年 5 月 11 日付で連結子会社化したコラボテクノ株式会社（以下「コラボテクノ」）との技術 PMI（買収後統合）を次の段階へ移行し、2026 年 9 月 1 日から、コラボテクノのエンジニア約 30 名を対象とした「AI-FDE 高度化プロジェクト（PROJECT FLY2026）」（以下、本プロジェクト）を開始することを決定しましたので、下記のとおりお知らせします。

コラボテクノは、システム開発における要件定義、設計、実装および顧客対応の経験を有するエンジニア人材を擁しており、当社は、これらの人材を当社グループの FDE（Forward Deployed Engineer）事業を支える実装基盤として位置付けています。現在、当社との共同提案や AI・DX 案件への参画を段階的に進めています。

本プロジェクトでは、コラボテクノが有するシステム開発・エンジニアリング力に、当社が保有する生成 AI、音声 AI、AI Agent、VAAP（Voice AI Agent Platform）および AI 駆動開発ノウハウを本格的に融合します。

これにより、コラボテクノのエンジニアリング力を基盤として、AI・VAAP を活用した顧客課題の特定、要件定義、Agent 設計、実装、導入および継続改善までを一体的に担う AI-FDE 体制を整備し、FDE 事業の対応力、開發生産性および収益性の向上を目指します。

また、本プロジェクトで蓄積する研修、OJT、Agent 開発および FDE 営業のノウハウを体系化・AI Agent 化し、将来的には外部企業へ提供可能な「Hmcomm AI-FDE Academy（仮称）」として事業化することを目指します。

さらに、本プロジェクトを、今後の SES 会社・システム開発会社に対する M&A およびロールアップ戦略における標準的な技術 PMI モデルとして活用し、買収対象企業の事業モデルと収益構造を転換する、再現性のある M&A 成長モデルの確立を目指します。

1. 本プロジェクト開始の背景

当社は、2026 年 4 月 28 日付「コラボテクノ株式会社の株式取得（子会社化）に関するお知らせ」および 2026 年 5 月 11 日付「(開示事項の経過) コラボテクノ株式会社の株式取得（子会社化）完了に関するお知らせ」において、コラボテクノの子会社化により「エンジニアリング (AI プロダクト実装)」機能を獲得し、FDE モデルを確立する方針を公表しました。

また、2026 年 7 月 8 日付で公表した「(開示事項の経過) コラボテクノ株式会社との統合進捗および AI 駆動型開発・FDE モデルによる 事業シナジー創出に関するお知らせ」において、組織統合を進めるとともに、コラボテクノを当社 AI プロダクトの「実装エンジン」と位置付け、FDE 化および AI BPaaS 化を推進する方針をお知らせしています。

これまでの PMI において、両社の組織連携、共同営業、開発環境の整備および AI 駆動開発導入の準備が進化したことから、今回、コラボテクノが有するエンジニアリング力を基盤として、AI・VAAP に関する技術移転、人材の高度化、VAAP 商品開発、FDE 案件の共同受注および新規サービス開発を一体的に推進する本プロジェクトを開始します。

本プロジェクトは、コラボテクノが既に有するシステム開発、顧客対応および実装の経験を基盤として、当社の AI 技術、VAAP および AI 駆動開発ノウハウを融合し、同社のエンジニアリング人材が AI-FDE として担える業務領域を段階的に拡大する技術 PMI プロジェクトです。

また、当社グループにおける M&A 後の統合を、管理・組織面の統合にとどめず、買収対象企業の人材、技術および顧客基盤を AI 事業へ展開し、収益性と企業価値の向上につなげる「事業変革型 PMI」の実証プロジェクトとして位置付けています。

2. プロジェクトの概要

項目	内容
プロジェクト名称	コラボテクノ AI-FDE 高度化プロジェクト (PROJECT FLY2026)
実施期間	2026 年 9 月 1 日～2026 年 12 月 31 日
対象者	コラボテクノのエンジニア約 30 名
主な目的	AI 駆動開発能力の強化、VAAP Agent 開発、AI-FDE 対応領域の拡大および FDE 事業の受注・収益化
推進体制	当社の営業、研究開発、AI 駆動開発および品質管理部門と、コラボテクノの営業・技術部門による共同推進
最終目標	コラボテクノが有するエンジニアリング力を基盤として、約 30 名のエンジニアによる AI-FDE 事業の組織的な推進体制を確立し、AI Agent の設計・実装・導入・運用改善力および収益性を向上

3. 本プロジェクトの主要施策

(1) AI 駆動開発力の強化

コラボテクノのエンジニア約 30 名を対象として、生成 AI をソフトウェア開発工程に組み込むための実践的な研修を実施します。研修では、AI による仕様書作成、コード生成、プロトタイピング、テスト、デバッグ、コードレビュー、セキュリティ対策、ガードレール設計および AI Agent 開発等を取り扱います。コラボテクノが既に有するシステム開発・実装能力に AI 駆動開発手法を組み合わせることで、開発スピード、品質および生産性の向上を図ります。

(2) VAAP 商品開発 OJT

研修と並行して、当社が開発・提供する VAAP 上での AI Agent および Agent Suite 開発を OJT として実施します。コラボテクノのエンジニアが、当社の研究開発部門および各事業部門と共同で、Agent 設計、API・外部サービス連携、セキュリティ、LLM Ops、本番環境へのデプロイおよび商用品質対応等を実践します。2026 年 12 月末までに、対象エンジニアがそれぞれ複数の AI Agent または Agent Suite の開発・実装に参画し、本番環境へリリースすることで、当社グループ全体の AI プロダクト開発供給力を拡大することを目指します。

(3) FDE 共同営業および案件化

当社とコラボテクノの営業・技術部門が共同で、既存顧客および新規顧客に対する AI・DX 案件の提案活動を行います。顧客の業務課題を起点として、課題整理、要件定義、PoC、AI Agent 設計、実装、導入および継続改善までを一体で提供し、従来型 SES と比較して付加価値および収益性の高い FDE 事業モデルの本格展開を進めます。AI 駆動開発力の強化および VAAP 商品開発 OJT と並行して実際の顧客提案を進めることで、習得した技術を早期に案件へ適用し、FDE 事業の受注、売上および受注残の積み上げにつなげます。

(4) 研修・OJT ノウハウの AI Agent 化および外部事業化

本プロジェクトで実施する研修、OJT、Agent 開発、コードレビュー、トラブル対応、品質管理、顧客提案および要件定義等の内容を記録・体系化します。蓄積したナレッジを、技術 QA Agent、開発レビュー Agent、AI 開発ナレッジ Agent および学習支援 Agent 等として実装し、将来的には、企業の AI 人材育成および AI 駆

動開発への転換を支援する「Hmcomm AI-FDE Academy（仮称）」として、外部企業への提供を目指します。Hmcomm AI-FDE Academy（仮称）では、単なる研修コンテンツの提供にとどまらず、AI 駆動開発環境の導入、AI Agent 開発の実践的 OJT、FDE 人材の育成、開発品質管理、顧客提案および案件化支援までを一体として提供することを想定しています。これにより、AI 駆動開発への転換を必要とする国内のシステム開発会社、SES 会社および事業会社の開発部門に対して、再現性のある AI 人材育成・事業転換サービスを提供し、新たな収益機会の創出を図ります。

(5) 今後の SES 会社ロールアップ戦略への活用

当社は、本プロジェクトをコラボテクノ単独の人材育成・事業高度化施策ではなく、今後の M&A 戦略における標準的な技術 PMI モデルを構築するための実証プロジェクトと位置付けています。国内の SES・システム開発業界では、エンジニア不足、低収益な多重下請構造、生成 AI の普及に伴う従来型開発需要の変化および後継者不足等を背景として、事業構造の転換が重要な課題となっています。当社は、今後、技術力、エンジニア人材、顧客基盤等を有する SES 会社・システム開発会社を対象とした M&A およびロールアップ戦略を検討・推進していく方針です。買収後は、買収対象企業に対して、本プロジェクトで確立する AI 駆動開発研修、VAAP 商品開発 OJT、FDE 共同営業および Hmcomm AI-FDE Academy（仮称）を展開することで、従来型の人月・SES 事業から、AI Agent の設計、実装、導入および継続改善を担う、高付加価値な AI-FDE 事業への転換を目指します。

これにより、M&A によってエンジニア人材と顧客基盤を獲得するだけでなく、買収後に当社の AI 技術、VAAP および Hmcomm AI-FDE Academy（仮称）を導入することで、買収対象企業の事業モデルと収益構造を転換する「AI トランスフォーメーション型ロールアップモデル」の確立を目指します。

4. 2026 年 12 月末までの目標

本プロジェクトでは、2026 年 12 月末までに、以下の実現を目指します。

- ▶ コラボテクノのエンジニアリング力を基盤として、約 30 名のエンジニアに AI 駆動開発および VAAP 開発の実践力を展開し、AI-FDE 事業を組織的に推進できる体制を確立する
- ▶ VAAP 上で合計約 120 本（対象エンジニア 1 人あたり 4 本）の AI Agent および Agent Suite を開発・本番リリースするとともに、当社とコラボテクノによる共同提案を通じて、AI・FDE 案件の受注および受注残を積み上げる
- ▶ 研修・OJT で蓄積したナレッジを AI Agent 化し、Hmcomm AI-FDE Academy（仮称）の外部提供に向けたサービス基盤を構築する
- ▶ コラボテクノで実証した AI-FDE 高度化の手法を標準化し、今後の SES 会社・システム開発会社に対する M&A および技術 PMI に展開可能なモデルを確立する

なお、上記は本プロジェクト開始時点における目標であり、現時点において確定した受注、売上または利益を示すものではありません。

5. 当社グループの成長戦略における位置付け

当社は、コラボテクノの子会社化を、単なる開発人員の獲得ではなく、AI プロダクトを顧客の業務現場へ迅速に実装するための事業基盤の獲得と位置付けています。本プロジェクトを通じて、当社グループは以下の事業構造への高度化を進めます。

（従来型モデル）

エンジニアの工数提供を中心とする人月型・SES 型ビジネス

(高度化モデル)

顧客課題の特定から AI Agent の設計、実装、導入および継続改善までを担う AI-FDE 型ビジネス

(将来モデル)

FDE によって蓄積した業務知識・開発ノウハウを AI Agent として標準化し、VAAP ライセンス、継続開発、運用支援および Hmcomm AI-FDE Academy (仮称) による人材育成サービスを組み合わせたリカーリング型ビジネス

さらに、本プロジェクトで確立した人材の高度化、技術移転、共同営業、Agent 開発および収益構造改革の手法を、今後の SES 会社・システム開発会社に対する M&A およびロールアップ戦略へ展開します。

これにより、当社グループは「SES 会社を買収して売上規模を拡大する」のではなく、「買収対象企業のエンジニアリング力と顧客基盤に当社の AI 技術および VAAP を融合し、その事業モデルと収益構造を変革する」という、再現性のある M&A 成長モデルの確立を目指します。

なお、現時点で個別に決定した新たな M&A 案件はありません。今後、開示すべき事項を決定した場合には、速やかにお知らせします。

6. 今後の見通し

本件による 2026 年 12 月期の連結業績への影響は軽微です。本取り組みを 2027 年 12 月期以降の成長施策の一つとして位置付け、事業展開の加速および中長期的な企業価値の向上につなげてまいります。今後、業績予想の修正その他の公表すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

以 上